

# そよう病院が担う 役割について

平成30年7月

山都町包括医療センターそよう病院

## 【そよう病院の現状と課題】

### 《基本理念》

へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します

### 《基本方針》

- 1．患者様中心の全人的医療を確立します
- 2．全職員常に自己研鑽に努め、医療水準の向上に努めます
- 3．医療環境を常に整備し、安心・安全の医療水準を提供します
- 4．合理的かつ効率的な病院経営に努め、自立した経営基盤を確立します

### 《診療実績・職員数など》

届出入院基本料  
許可病床数

10対1  
57床（急性期）

平成24年11月 新築



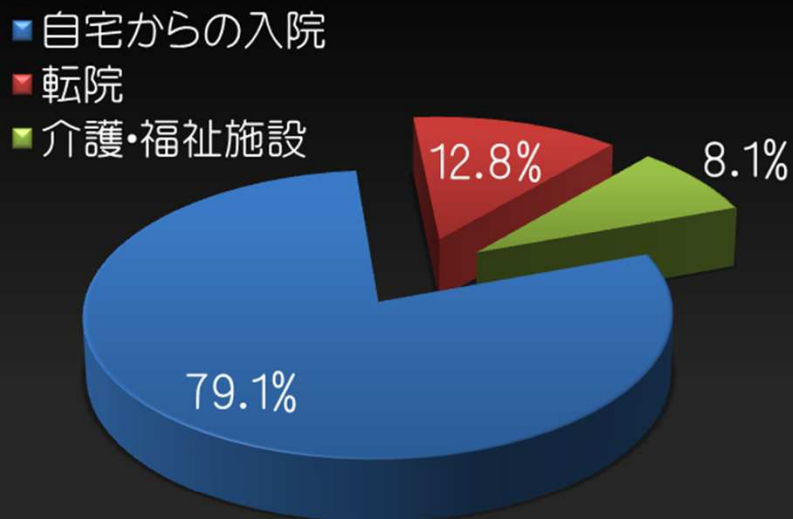
# 1 現状と課題

2/11

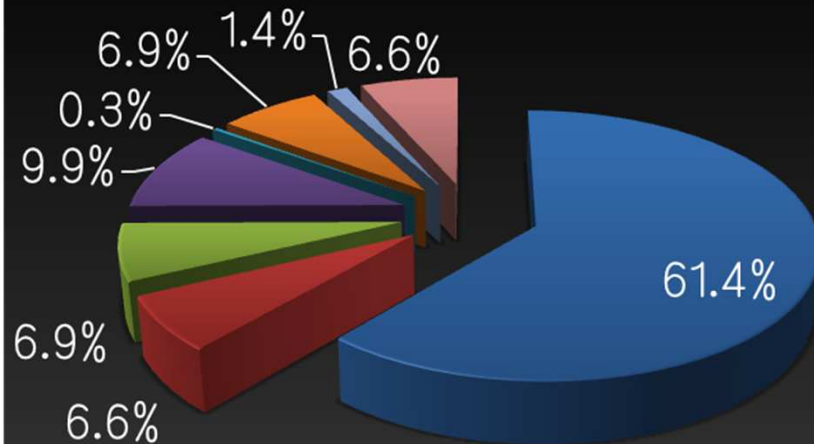
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院 延患者数	(人)	16,073	15,840	16,400	15,211	15,816	17,185
1 日 平 均 入 院 患 者 数	(人)	44.0	43.4	44.9	41.6	43.3	47.0
外来 延患者数	(人)	44,738	47,580	49,727	48,577	47,885	46,870
1 日 平 均 外 来 患 者 数	(人)	139.9	163.3	171.2	167.2	164.8	161.5
病 床 利 用 率	(%)	77.1	76.1	78.9	72.9	76.0	82.4
平均在院日数	(日)	18.6	19.1	19.9	18.9	18.5	19.7
		平成24年11月 新病院開院				平成28年4月 熊本地震発生 平成28年12月 地域包括ケア 病床開始	

## 入退院分類

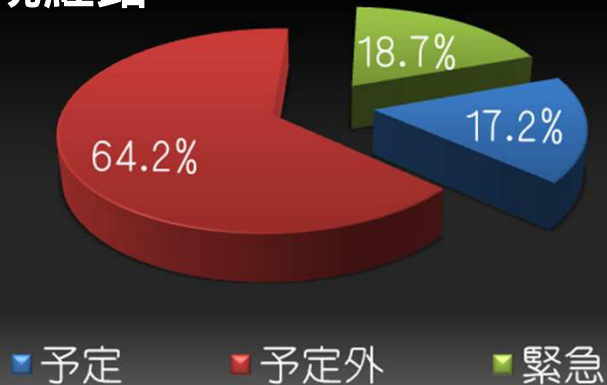
### 入院区分



### 退院区分



### 入院経路



- 自宅退院(当院受診)
- 自宅退院(他院受診)
- 自宅退院(その他)
- 転院
- 介護老人保健施設

## 職員数

<b>医師</b>	<b>4名</b>	理学療法士	4名
歯科医師	1名	作業療法士	1名
看護師	34名	歯科衛生士	2名
〔看護師中、3名は訪問看護ステーション勤務〕			
准看護師	3名	<b>管理栄養士</b>	<b>1名</b>
<b>薬剤師</b>	<b>1名</b>	調理師	3名
診療放射線技士	2名	事務職員	7名
臨床検査技師	2名		
			合計 66名
他に、嘱託職員、派遣職員等		21名	

## 《自施設の特徴》

救急告示病院（熊本県告示第125号：昭和58年指定）

熊本県へき地医療拠点病院（平成15年4月指定）

熊本大学医学部附属病院群研修協力病院

地域包括医療・ケア認定施設（認定番号000195）

附帯施設：へき地診療所（北部／井無田／緑川）／訪問看護ステーション

入院病床については急性期機能57床の急性期病院ですが、救急医療を中心に、回復期医療、へき地医療、在宅医療、訪問診療・看護、地域包括ケア、透析医療、学校保健などにも取り組んでおり、地域医療を担う病院としての役目を担っています。

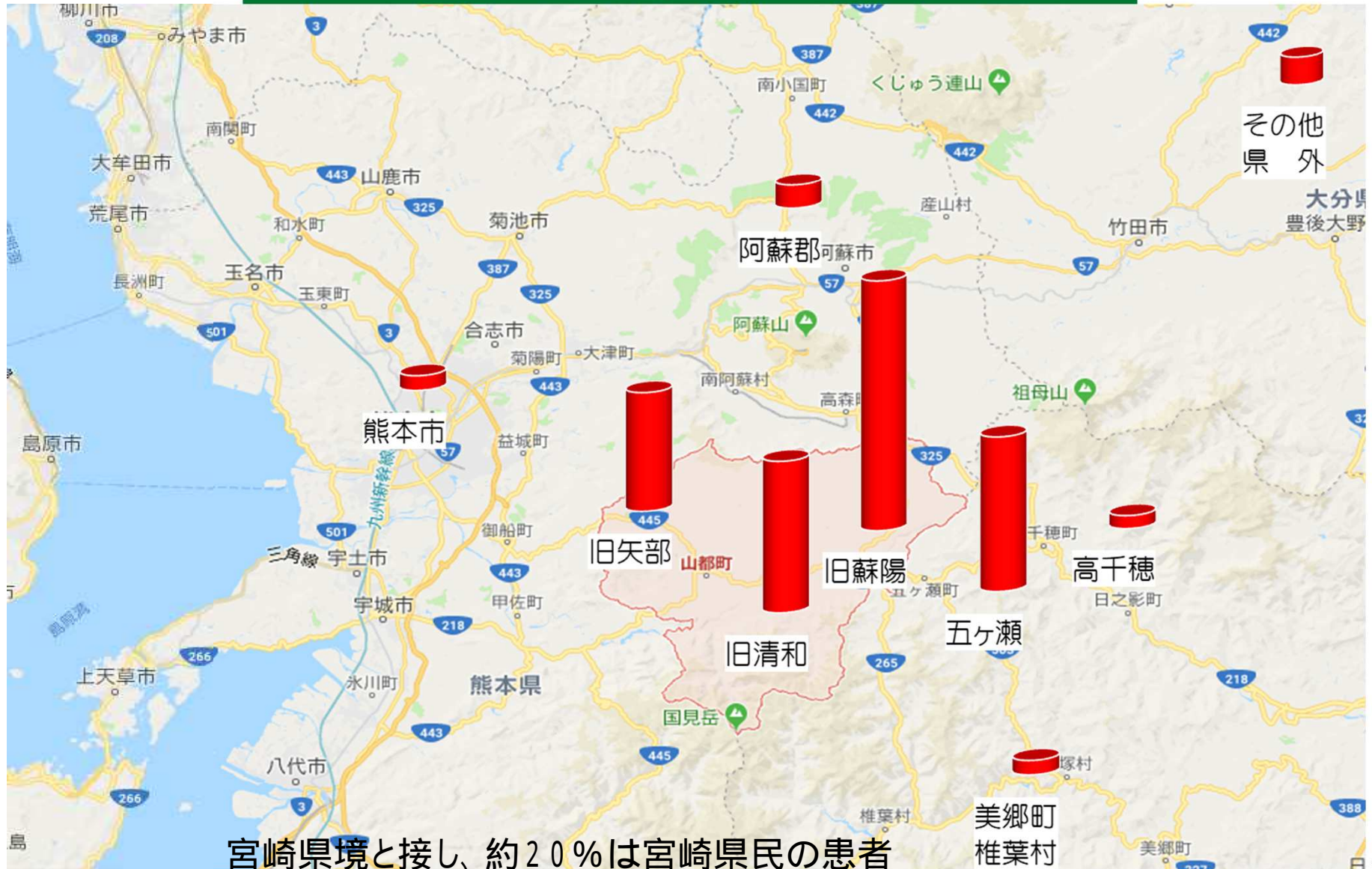
平成18年度から上益城郡・町内唯一の救急告示病院となり、

救急車搬入件数が急増（H17：102件、H19：216件）。

平成28年4月の熊本地震以降も救急車搬入件数が増加。（H27：224件、H28：328件、H29：320件）。

病院に隣接してグラウンドがあり、ヘリの発着場として活用。近年はヘリによる緊急搬送も増え、平成29年度は防災ヘリ、ドクターヘリあわせて19機が離発着しました。

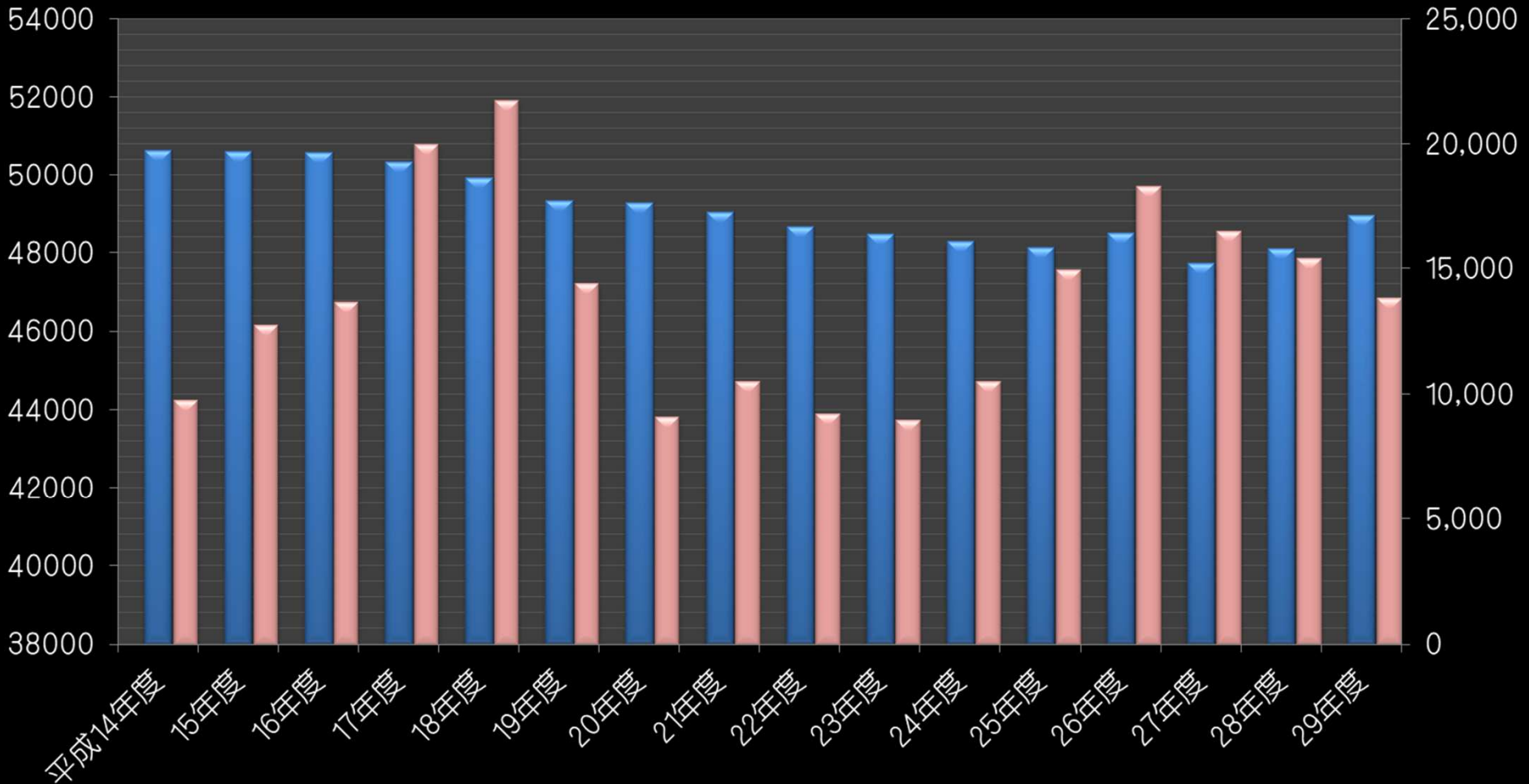
## 診療圏域



## 年延入院・外来患者数の推移

■ 年延外来患者数 ■ 年延入院患者数

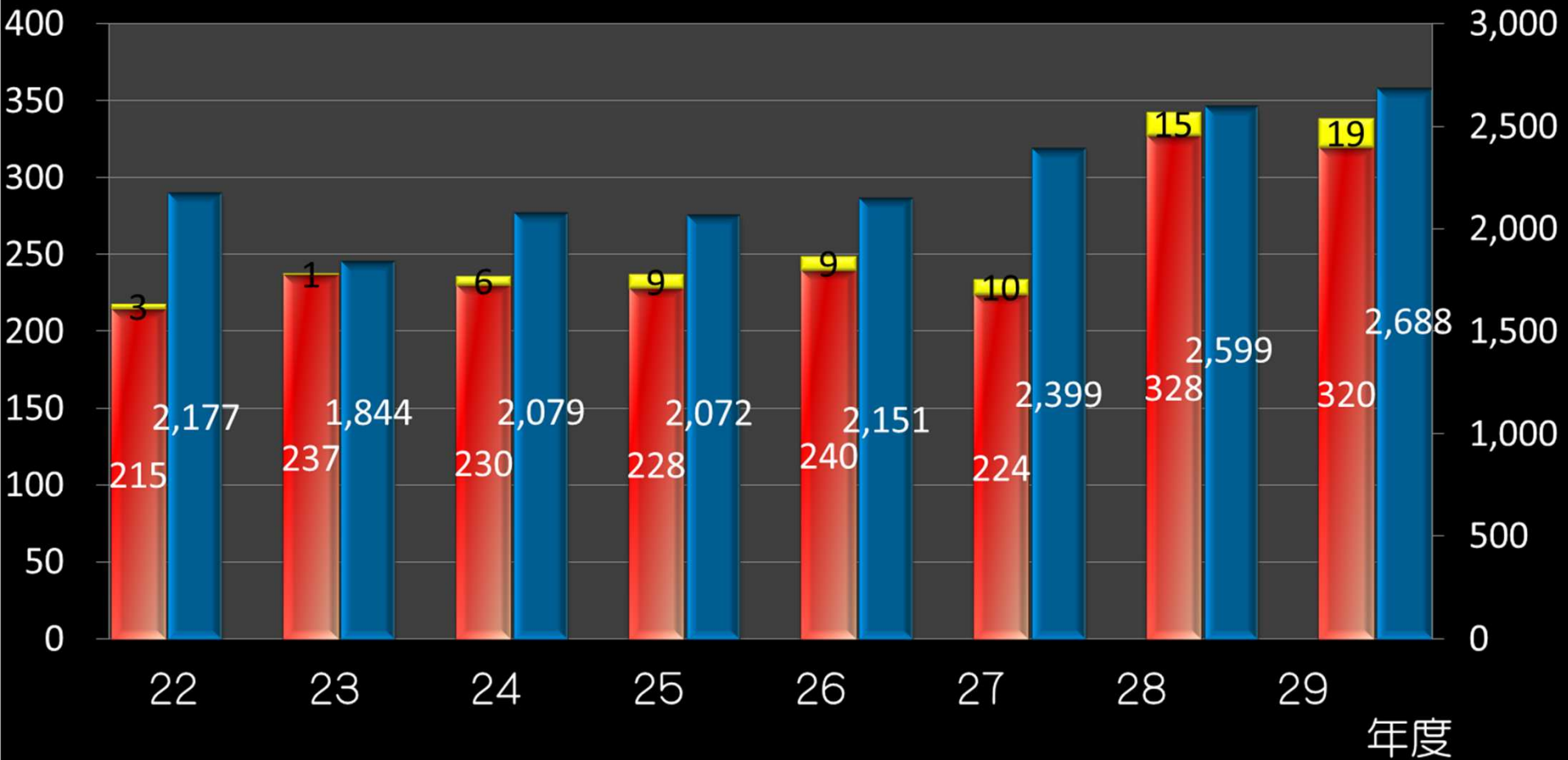
人





## 救急患者数の推移

救急車搬送受入台数・ヘリ件数・救急患者数



公立病院として町の保健衛生担当課と連携し、町が目指す「山の都」で生涯にわたり日々を健康に暮らし、安心して必要な医療が受けられる体制づくり（**地域包括医療・ケアシステム**）を進めています。

- ・ **地域ケア会議**を、地域内の老人福祉施設・介護施設、社会福祉協議会、行政とともに、**毎月院内会議室で開催**。

山都町の平成30年3月末の高齢化率は45.9%となっており、今後人口は更に減少する一方で高齢者人口は増え、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、山都町の2040年の高齢者比率は60%を超え、県内で一番高くなると予想されている。

この状況を見越して、平成28年12月から10床を地域包括ケア病床とし、地域の回復期医療をも担うこととした。

5 疾病：当院の常勤医は**総合診療医**として、地域で必要とされる医療機能を果たしているが、対応が困難な疾病分野については、適切にトリアージを行い、熊本圏域の**高度急性期病院と連携**して対応している。

5 事業：昭和58年に**救急告示病院**の指定を受け、地域における1次・2次医療の中心的医療施設としての役割を果たしており、町内唯一の救急告示病院として救急医療を担っている。

また県の**へき地医療拠点病院**の指定を受け、へき地医療拠点病院として3箇所のへき地診療所にて診療を行っている。

さらに平成29年からは産山村診療所にも医師を派遣中。

**在宅医療**：併設の訪問看護ステーションと連携し、必要に応じて訪問診療に取り組んでいる。また、**在宅療養支援病院**として、急変時の後方病院としての機能も担い、また近隣の特別養護老人ホームなどでの施設内看取りにも協力している。

**透析医療**：九州中央に透析空白地帯ができないように、透析ベッド11床を運営し、約28名の慢性腎不全患者の維持透析をおこなっている。

## 医師・医療スタッフの確保

- ・ 常勤医師が不足しており、常勤医での医師定数が満たされない状況が続いている。
- ・ 医療スタッフの中では、特に薬剤師、看護職員の確保が難しい状況にある。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
標準医師数	6.05	6.45	6.48	6.34	6.38	6.44
常勤医師数	4	4	4	4	4	4
非常勤医師数 (常勤換算)	3.41	2.93	2.53	2.70	2.59	2.80

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

山都町において唯一の公立病院・救急告示病院であり、山都町のみならず、阿蘇郡の一部、県境に接するため宮崎県の一部を含めた地域の医療を担う病院としての役割を果たすとともに、山都町が目指す、安心して必要な医療が受けられる体制づくりを維持する。

- ・ 救急医療の継続
- ・ 急性期医療から回復期までのシームレスな医療提供
- ・ へき地診療所の診療継続
- ・ 町から委託を受けた健診・予防接種・学校保健等の保健事業の推進

### 在宅医療・地域包括ケアシステム

- ・ 地域の高齢化に対応した訪問診療・訪問看護・訪問リハビリの継続
- ・ 地域ケア会議の継続と充実
- ・ 地域包括ケアを支える後方支援病院としての役割を担う

**透析医療**：九州中央に透析空白地帯ができないように、透析ベッド11床を運営維持し、慢性腎不全患者の維持透析をおこなう。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

以上述べてきたように、そよう病院は今後もこれまでと同じように

へき地医療拠点病院としての役割はもとより、  
救急告示病院として、救急医療を含めた急性期医療を守ってゆき、

地域で求められる在宅医療への支援・地域包括ケアシステムの後方支援病院（在宅療養支援病院）としての役割をも担っていく。

しかしながら、これからも高齢化が進展してゆく地域であることから、在宅復帰までに時間を要する患者の増加も予想されるため、一定程度の回復期医療も担わざるを得ない。

# 3 具体的な計画

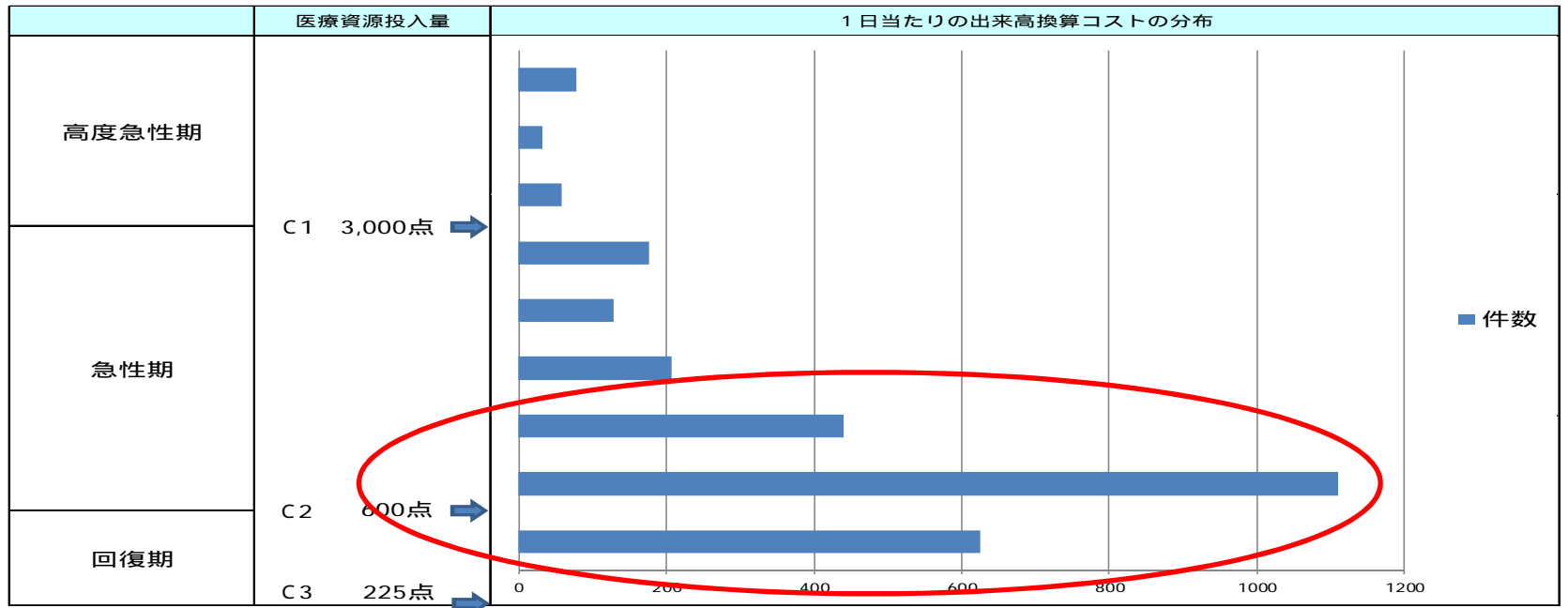
## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院入院部門での医療資源投入量を分析、厚生労働省が示した病床機能の目安と照らし合わせると、急性期機能のうちでも回復期機能に近い部分も多い。(下グラフ)

今回の地域医療構想では、病床機能を病床単位ではなく、**病棟単位**で策定しなければならないことから、**公立病院としてより求められる急性期機能**で申請するが、**実際には回復期機能も一部包含していること**をご理解ください。

当院における医療需要実績



### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その3 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	57	57	57
回復期			
慢性期			
その他			
合計	57	57	57



### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 診療科の見直し 】

	現時点 (30年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、循環器内科、 消化器外科、呼吸器内科、 整形外科、小児外科、小児科、 眼科、リハビリテーション科、 精神科、心療内科、 歯科、歯科口腔外科	維持	地域内で唯一の救急告示 病院、へき地医療拠点病 院としての機能維持
新設	無し	総合診療科	
廃止	無し	無し	
変更・統合	無し	無し	

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(平成30年4月時点)	2025年
病床稼働率	80.7%	<u>80.0%</u>
紹介率	3.7%	<u>10%</u>
逆紹介率	23.5%	<u>25%</u>

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

医師及び医療スタッフの人材確保に向けた取組みの強化。

- ・ 病院ホームページの募集サイトの充実と関連する募集サイトへの登録強化による情報発信
- ・ 熊本県、熊本大学等への医師派遣の働きかけの継続
- ・ 医療スタッフの人脈の活用と、出身学校との連携強化

在宅医療については、訪問看護ステーションの活動強化と、訪問リハビリ強化のために、人員配置等の充実を図る。

福祉関連施設や行政との連携を強化することにより情報の共有を進め患者数の確保に取り組む。